

28年産米の主な取組みと結果・課題

①生産・集荷

- ◆飼料用米の拡大等による計画生産を継続推進
- ◆担い手・JAニーズをふまえた多様な集荷手法の提案・実施
- ◆概算金は前年産を上回る水準で設定



- ◆2年連続で過剰作付は解消し、28年産米の需給環境は前年産に引き続き均衡を維持
- ◆集荷競争の激化、直売も増加し連合会集荷見込み(水田活用米穀含む)は299万ト(前年比▲5万ト)に減少

②流通・販売

- ◆事前契約の拡大による実需者との安定的取引の拡大
- ◆炊飯事業など付加価値を高めた販売の強化



- ◆事前契約は前年を上回る121万トに拡大(前年産比+14万ト)
- ◆全農パールライスが炊飯業者「煌」を買収、全農グループ炊飯事業28年度見込みは58億円(前年比+19億円)に拡大

【29年産に向けた課題】

1. 29年産米以降の需給環境の維持
2. 実需者との安定的取引のさらなる拡大
3. 集荷数量の確保・拡大
4. 国の農業政策見直しへの対応

29年産米の取組み方針

①安定取引の確保と需給の均衡

- ◆実需者との事前契約(複数年契約を含む)など安定的な取引をさらに拡大

【事前契約の拡大(複数年契約含む)】



- ◆主食米の需要減少に対応し、主食米から水田活用米穀への作付転換を継続

【飼料用米の拡大】



②精米直接販売事業の強化

- ◆実需者への全農直接販売・パールライス会社経由での精米販売を基本とする事業へ転換

【パール卸を通じた精米販売の拡大】



- ◆実需者への安定的販路を確立している米穀卸や、実需者への出資・業務提携を推進

【米穀卸や実需者との出資・業務提携推進】



③多様な手法による集荷対応の強化

- ◆産地ニーズに応じた買取・委託非共計やフレコン集荷・庭先集荷など多様な集荷手法を拡充

【多様な集荷手法による集荷確保】



【ニーズをふまえた買取の拡大】



- ◆実需者ニーズをふまえた多収性品種等の契約栽培を推進・拡大

【多収性品種等の契約栽培推進】

